

13 自性寺自然環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 自性寺周辺一帯（北浦村）
- (2) 指 定 昭和52年2月3日（茨城県告示第117号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、武田川に沿った行方台地であって人工林も見られるが、一部には常緑広葉樹林が自然植生の状態で残存し、その林床には暖地性の植物が自生し、優れた自然環境を形成している。このため、本地域は、自然環境保全条例第3条第1項第5号の「植物の自生地、野生動物の生息地」に該当する。

(2) 保全すべき自然環境の特質

本地域は、武田川に沿った行方台地であって、スギ、ヒノキの人工林や、タブノキ、スダジイ、カシ類などの常緑広葉樹林からなって、その林床にはヤブラン、カラタチバナなど多様な植物が生育し、また、野生動物が生息している。

ア 植 生

本地域には、タブノキ、スダジイ、カシ類などの常緑広葉樹の中に、ゴンズイ、ムラサキシキブ、イヌシデ、ヤマウルシ、ケヤキなどの落葉広葉樹が混生し、これらの他に人工植栽のスギが混り、付近にヒマラヤスギ、タラヨウ、モッコク、ヤマモモ、ケヤキなどの大木が生育している。

本地域を構成している森林は、高木層にスダジイ、タブノキ、アカマツ、シラカシ、アカガシなどがあり、亜高木層にはヤブツバキ、スダジイ、タブノキ、シラカシ、アカガシ、ホオノキなど、低木層にはスダジイ、モチノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、ゴンズイ、コナラ、ガマズミ、ム

ラサキシキブ、イヌシデ、イロハカエデ、ヌルデ、シキミなど、草本層にはシラヤマギク、ミツバアケビ、テイカカズラ、ヌスビトハギ、ツルウメモドキ、タガネソウ、ナキリスゲ、イタビカズラ、ジャノヒゲ、ヤブラン、カラタチバナなどが自生している。特に本地域を代表する植物は、鹿島地方にまれに見られる暖地性の植物で本県南部を北限とするカラタチバナが自生し、本県では当地域以外に成育していないヤマモモの大木、カヤの大木にはカヤラン、ヨウラクランなどの着生ランが自生している。

イ 動物

地域内に生息する昆虫類は、アオスジアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、ホソバセセリなどが生育し、鳥類ではヒヨドリ、モズ、ムクドリ、キジバト、コジュケイ、ツグミなどが生息している。

このうち、特にモンキアゲハ、ホソバセセリは特色あるチョウで、モンキアゲハは、本州では本県が太平洋側の生息の北限地で、特に海岸地方に多いホソバセセリは、本州では北関東から東北地方にはまれである。

(3) 自然環境の保全に関する基本的な事項

地域全域を普通地区とし、そこに生育する植物、野生動物の生育する自然環境を維持する。このため、保全に必要な規制は条例の定めにより行う。

(4) 保全施設に関する基本方針

巡視歩道、標識、廃棄物処理施設、植生復元施設、病虫害防除施設、給餌施設、養殖施設等を必要に応じて設ける。

(5) 地区の区域設定に関する計画

本地域の区域は、次のとおりとする。

名 称	位 置	区 域	総 面 積	土地所有別面積	摘 要
自 性 寺 自 然 環 境 保 全 地 域 普 通 地 区	茨 城 県 行 方 郡 北 浦 村 内 部	茨 城 県 行 方 郡 北 浦 村 内 宿 の 一 部	ヘクタール 3.77	ヘクタール 民有地 3.77	スギ、ヒノキの人工林 タブノキ、スタジイなどの常緑樹 モンキアゲハなどのチョウ類

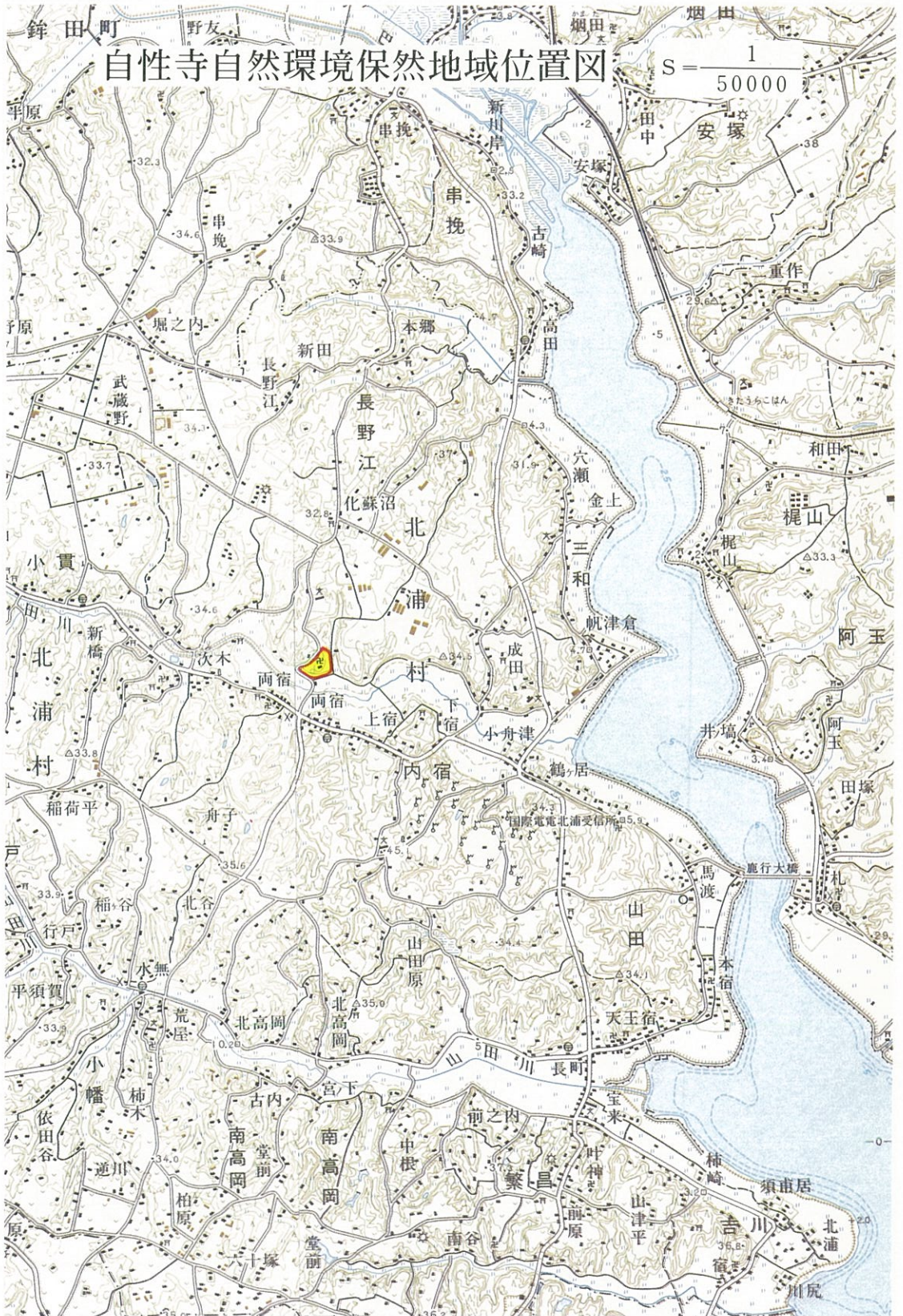
総 括 表

区 分	特 別 地 区									普 通 地 区			合 計		
	野 生 動 植 物 保 護 地 区			そ の 他 の 地 区			小 計								
所 有 別	国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地
所 有 別 面 積 (ヘクタール)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.77	0	0	3.77
地 区 別 面 積 (ヘクタール)	0			0			0			3.77			3.77		
地 区 別 (パーセント)	(0)			(0)			(0)			(100)			(100)		

(面積は北浦村地籍調査による)

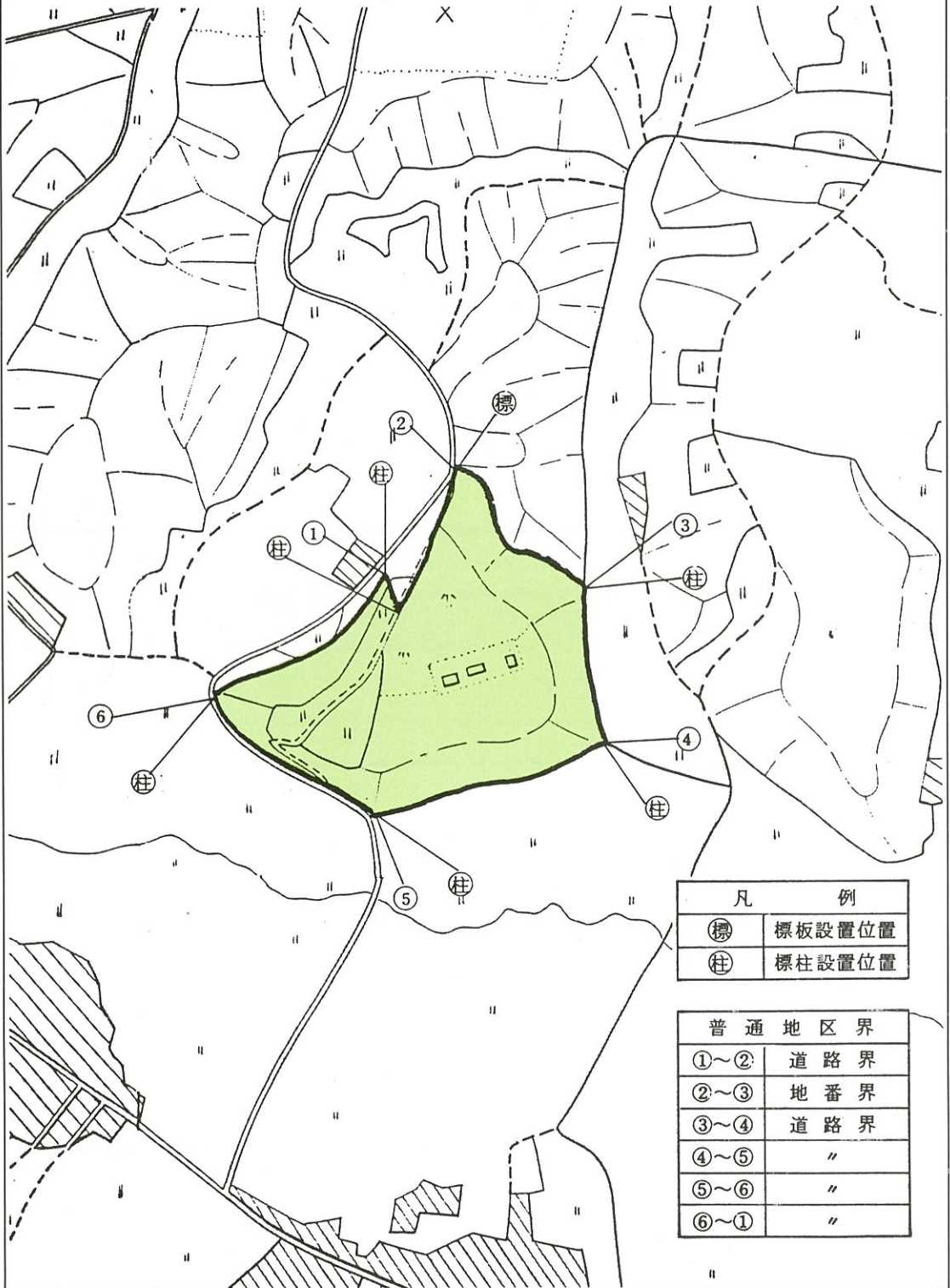
自性寺自然環境保然地域位置図

S = $\frac{1}{50000}$



自性寺自然環境保全地域区域図

$$S = \frac{1}{5000}$$



凡 例	
標	標板設置位置
柱	標柱設置位置

普通地区界	
①~②	道路界
②~③	地番界
③~④	道路界
④~⑤	〃
⑤~⑥	〃
⑥~①	〃